

Next Stage 2 日本語リライト演習

「子供の教育」

子供を勉強する子にするにはどうしたらよいかということと言うと、まず親のインセンティブが第一である。うるさく言われたらやる気が出るという子供がいると思われるだろうか。自分が子供だった時代のことを思い出してみれば、叱られたらますます自分はだめだとやる気をなくした少年時代がよみがえってくるようである。

友人のお母さんで誉め上手なお母さんがいた。そのお母さんがやさしくインセンティブを与えていたのが効果を表したのか、目立たなかった存在だったその友人は、いつの間にか勉強にもスポーツマンシップにもあふれた少年になり始めたのであった。インセンティブとともに大事なものは、プライオリティーである。今何をすべきかを常に子供に考えさせて決めさせられる親の子供は、勉強しなければならないときには勉強をする子供になるはずなのである。

リライト例—— 1

わが子を勉強する子供にするには、どうしたらよいのでしょうか？ 何よりも大事なものは、親がやる気にさせる方法です。「親からうるさく言われたらやる気が出る」という子供がいると思いますか？ ご自分が子供だった頃を思い出してみてください。少年時代に、叱られて、「自分なんてだめなんだ」とますますやる気をなくしたことを思い出しませんか？

友人のお母さんに誉めるのが上手な人がいました。おそらく、おかあさんのやさしい励ましや誉め方が効いたのでしょう、その友だちは特に目立つ存在ではなかったのですが、いつの間にか勉強でもスポーツでも頭角を現し始めたのです。励ましたり、誉めたりすることと同様に大事なものは、「いちばん重要なのは何か」を見極める力です。いつも「今何をすべきか」を子供に考えさせ、自分で決めさせるようにしていれば、勉強すべきときには勉強する子供になるはずで

リライト例—— 2

「うちの子、どうしたらもっとよく勉強するようになるでしょう？」と聞かれます。私は逆に、「お子さんを温かく励ましていますか？」と尋ねるようにしています。「勉強しなさい！」「宿題は？」とうるさく言われて、「よ～し、やるぞ！」と張り切る子供がいるのでしょうか？ 自分が子供だった頃を思い出してみましようよ。私など叱られるたびに、「やっぱりぼくはダメなんだ」と、ますます勉強に身が入らなくなったものです。

一方、友だちのお母さんに、子供を上手に誉める人がいました。「よくできたじゃないの」「それでいいのよ」。お母さんが優しく励ましていたのが功を奏したのか、目立たなかった友人は、いつの間にか勉強でもスポーツでもメキメキ力を伸ばし、一目置かれる存在になりました。

「励ますこと」に次いで大切なものは、「優先順位を教えること」です。「今、一番しなくちゃいけないことは？」と日ごろから子供に投げかけ、考えさせる習慣を身につけること。そうすれば、子供は、勉強しなくてはならないときには、自分から机に向うようになるはずで